

目標達成計画

作成日：令和3年12月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念そのものは知っていても、内容を理解していないスタッフが多い。その為スタッフ個々の支援や管理者の個人的な価値で組織を動かす状況が続いている。こういう状況下において、ご家族、介護支援専門員からの信頼度の確保が出来なかったため、組織改革が必要。	法人の経営理念をスタッフ全員が理解でき、実践(支援)に移せるような施設を創り、地域に選ばれる施設を目指していきたい。私達にしかできない支援の確立。	①理念が理解出来るような研修会の開催 ②管理者ごとの教育体制、教育方針の立案、実行 ③事業報告 事業実績をいつでもどこでも確認出来るようなインターネットを活用した事業所の紹介 ④力量に応じた組織の見直し 役割分担 係 担当者	12ヶ月
2	18 36	どうしても、スタッフ中心の支援になってしまう事がある。その為、ご利用者に命令口調であったり、否定的な言動にもつながる事がある。普段力の支援が統一できるような組織と方法が必要である。	ご利用者もそうであるが、ご家族からも信頼できる支援をしていく。安全、安心、安楽な支援が出来るよう支援の確立をしていきたい。	①支援手順書(基本的マニュアル)を作成し、マニュアルに基づく支援を実行 ②定期的なOJTの開催をし、個々で学べるスキルアップの体制確保(労働者ニーズとのリンク) ③定期的会議の中にカンファレンスの内容の変更をする。 ④支援内容をご家族に確認出来るようにケアの動画や事業所の取り組みを適宜情報提供する。(動画編集、またインターネットの活用で、情報の共有が図れるようにする。タブレットの活用)	12ヶ月
3	4	コロナ禍において、地域との関わりが遮断してしまっている。その為、運営推進会議の中止が続き、家族会も遠方からお越しできないご家族もいる中で、地域や関係機関との情報共有が出来なくなっている。	この状況下でも地域との関わりが出来るような法人スタイルや事業所のイメージを変えていきたい。地域の住民も気軽に立ち寄れる場所を作りたい。	①次世代を見越した地域との関わり方を考案する。自治会へのリモート会議の提案 ②感染対策をし、 possibleの限り地域との関わりが出来るようなボランティア体制作り ③運営推進会議に代わる情報伝達方法の見直し ④定期的な地域交流の開催(介護教室・認知症カフェ・地域の環境整備や催し物への参加)	12ヶ月
4	13	個々の経験値や年齢によって、出来る支援と出来ない支援がある。(力を要する移乗や介助等)誰でも同じような支援が出来るチームづくりが必要である。	新人でもベテランでも高齢のスタッフでも同じような支援が出来るよう、又、いつまでも就労出来るような組織作りをしたい。	①スタッフ個々の力量評価を行い、優れている面や補わなければならない部分の可視化をし、育成につなげる。(力量評価)(介護技術)(給料査定) ②福祉機器の有効活用と使用方法の教育 ③スタッフの健康状態を把握し、福利厚生提案(休暇・特別休暇・メンタルヘルス) ④楽しく支援が出来るようなアクティビティ・ケアの開発と実践(支援者が楽しくケアが出来る手法)	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。